

平成30年度山梨県南都留地域教育フォーラム提案書

第1分科会

山梨県立ふじざくら支援学校

教諭・地域支援担当 菊池恵

『子どもの多様な育ちと途切れのない支援』
～地域の特別支援教育センター校としての立場から～

1 ふじざくら支援学校のセンター的機能の紹介

○センター的機能とは…文部科学省が定めた特別支援学校の役割の一つであり、これまで蓄積してきた専門性を活かし、保育園（所）、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等からの要請に応じて、支援や助言を行っています。

○対象地域…県内の特別支援学校ごとに支援にあたる対象市町村が定まっています。

ふじざくら支援学校の支援対象地域は、富士北麓地域（富士吉田市、富士河口湖町、西桂町、鳴沢村、忍野村、山中湖村）です。 ※東部地域の支援はやまびこ支援学校が行っています。

①教育相談

支援を必要とする幼児・児童・生徒の理解について、気になる言動への具体的な関わり方、専門機関との連携の取り方…など、特別支援教育に関する様々な相談を受けています。

<対象> 対象地域に在住する子ども本人、保護者、教育関係者など

<相談方法> 1) 電話での相談 2) 来校していただいたの相談

※ふじざくら支援学校への進学をご検討されている方には、授業体験も行っています。

②訪問支援 …保育園（所）、幼稚園、小学校、中学校、高等学校を訪問

要請を受け、実際に学校を訪問し、支援します。先生方からの聞き取りやクラスの様子、幼児・児童・生徒さんの学校生活の様子を観察し、子ども理解や支援、指導について、相談を受けたり、アドバイスしたりします。

③研修支援

子ども理解や特別支援教育に関する研修会や学習会のお手伝いをします（講師や助言など）。

④関係機関との連携

相談機関、福祉サービス機関、医療機関などのご紹介や連携の支援をします。

⑤その他

1) 『盲学校/ろう学校サテライト教室』

視覚や聴覚に課題のある幼児・児童・生徒を対象に、ふじざくら支援学校を会場として、盲学校及びろう学校の教員が相談・支援を行います。

※ふじざくら支援学校の教員も連携して支援を行います。

2) 専門書の貸し出し

特別支援教育や様々な障害に関する専門図書を取りそろえ、無料で貸し出しをしています。

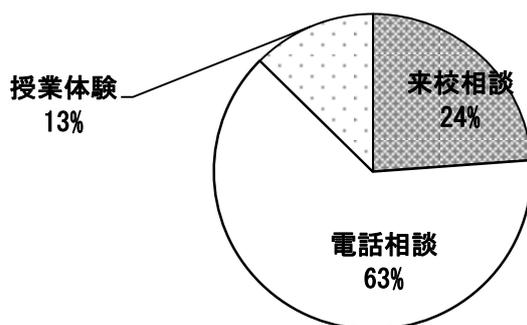
2 特別支援学校センター的機能の活用の様子

平成29年度の活用の様子

①教育相談

内訳	来校相談	電話相談	授業体験	合計
相談件数	36	96	19	151

H29年度 教育相談 割合

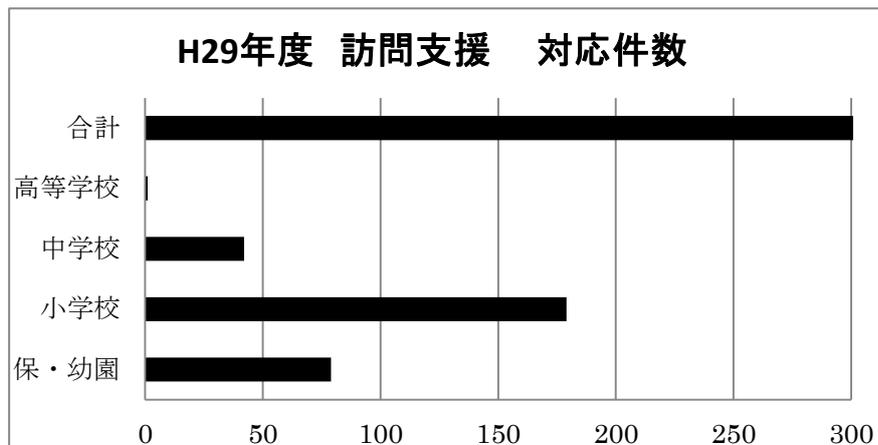
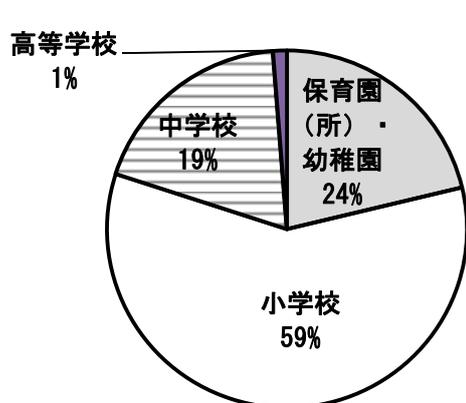


来校相談は就学や進学に関する相談が主になっていますが、幼児・児童・生徒さんへの関わり方や行動の理解についてなどの相談もあります。電話相談では、地域の学校に通う保護者の方からの相談や学校の先生からの相談などもあります。

②訪問支援

学校種	保育園(所)・幼稚園	小学校	中学校	高等学校	合計
訪問校数	17	47	15	1	80
対応件数	79	179	42	1	301

H29年度 訪問支援 内訳



例年、小学校からの依頼が多く、平成29年度は全体の約6割を占めました。次に多かったのが保育園(所)・幼稚園からの依頼です。幼児・児童・生徒さんの困りや言動を理解し、適切に関わ

ることで、落ち着いて過ごせるようになっていくことが多いです。

3 相談内容の例

保育園（所）・幼稚園	小学校
<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着かず、座って活動することが苦手 ・すぐ泣いてしまう ・大人（お母さんや先生）からなかなか離れられない ・偏食が強い ・なかなか言葉が出ない ・一人でいたがることが多い ・乱暴な振る舞いがある <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間（45分間）座ってられない ・忘れ物が多い ・気が逸れやすく、集中が続かない ・なかなか文字を覚えられない（ひらがな、漢字） ・音読が苦手な読みになる ・友達とのトラブルが多い ・会話が成り立ちにくい ・登校しぶりがある <p style="text-align: right;">など</p>

事例1（架空）＜保育園（所）の年中、男児＞

○子どもの様子

制作など活動には取り組めるものの、サッと仕上げて席を立ち、歩き回ってしまう。いろいろなことが気になって落ち着かないが、友だちに優しい言葉をかけてくれることもある。思いがけない場面で友だちに手が出てしまったり、活動の妨げをしてしまい、トラブルになることが多い。物を落とすなどして、あえて大人の気を引くようなことをすることもある。お母さんも育てにくさを感じることもあるとの話が担当保育士にあった。

○支援の提案

- ・落ち着いているときに、約束やルールについて確認する。注意はサッと端的にし、頑張っている時、集中できている時、友だちに優しく関わっている時に、少し大げさなく褒める。 ⇒ 自己肯定感を高める。「望ましい行動」を褒めることで伝えていく
- ・大人との関わりの中で抱きしめる、撫でる、タッチするなどして意図的にスキンシップをし、大人が「あなたを受け入れているよ。見守っているよ」というメッセージをわかりやすく伝える。 ⇒ 心のよりどころとなる関係（愛着）作りをし、大人との信頼関係を築く
- ・課題の場面では、取り組みのポイントを確認し（例えば塗り絵であれば、輪郭を取る、その中を隙間なく塗り込む、様々な色を使ってみるなど）、丁寧に取り組むことの大切さを伝える。また、「課題が終わったらすること」を用意しておく。 ⇒ 「今すること」の確認と準備、「どうすればいいのか」の確認
- ・お母さんやお父さんをはじめとする保護者の方と保育士さんとで、子どもの良いところや頑張っていること、現在の課題、園で取り組んでいることについて日頃から確認し合う。 ⇒ 保護者と保育士との協同。互いに抱え込まずに支え合う

事例2（架空）＜小学校2年生・女子＞

○子どもの様子

2年生になり、友だちの様子を見ながら学校の流れに沿って大まかに活動ができるようになった。教室にはいられるが、大きな音がした時や疲れた時などには、耳を塞いで自分の机の下や教卓の下に入ってしまうことがある。お話が好きで、自分の興味あるキャラクターの話をよく

くしてくれる。ただ、授業中にも急にキャラクターの話を始めてしまうなど、状況に応じて切り替えたり、行動したりすることが苦手である。運動会の練習や集会など、普段と違う日課や予定になると動きが止まってしまうたり、混乱してしまったりすることがある。

○支援の提案

- ・生活の基本的な流れが決まっていると過ごしやすくなる。また、お手本になる友だちや見てわかる手立て（文字やイラスト、写真、動画など）があると何をすればよいかわかりやすくなる。できた時はタイムリーに褒める。

⇒生活力を向上していく。わかりやすい手立てとしての視覚支援を活用する

- ・どこかに入りこむ、耳を塞ぐなどの行動は見守りながら、「大きな音にびっくりしたね。」「疲れちゃったかな」など、想定される子どもの気持ちを言葉にして声かけする。

⇒感覚の敏感さや疲労コントロールの苦手さに寄り添う。また、「感情」を言葉で表現していけるように大人が言語化する

- ・授業中の約束をその都度確認する。意識できた時は褒める。

⇒集団生活でのルールや社会性を養う

- ・初めてのことやいつもと違う日課、行事がある時は、できるだけ早く知らせる（予告）何があるのかわかるようにしていく。カレンダーを使ったり、昨年度の行事のビデオや写真を見せたりするなど、見てわかる手立て（視覚支援）があると、よりわかりやすくなる。

⇒わかる「安心感」と「心づもり」がもてるようにする。「見通す力」を養う

- ・お母さんやお父さんをはじめとする保護者の方と先生とで、子どもの良いところや頑張っていること、現在の課題、学校で取り組んでいることについて日頃から確認し合う。

⇒保護者と教師との共通確認と連携。互いに抱え込まずに支え合う

※これらの事例は、架空で作成したものです。こうした子どもの様子が相談で出された場合のアドバイスの一例になります。

どんな子どもにも、「大人の理解」と「受容的な関わり」が必要です。

支援のキーワード（一部紹介）

愛情と見守り …あたたかな愛情と大人の見守りが園（所）や学校で頑張るエネルギーになります。

大人との信頼関係 …その後の歩みにおける、人と関係を結ぶ基盤になります。信頼できる大人は、子どもにとっての先導役になります。

受容と寄り添い …「あなたを全面的に受け入れているよ」という姿勢と寄り添う関わりで、子どもは力を発揮できます。

環境の設定 …座席を工夫する。また、子どもが気になってしまう物は片付けたり、隠したりすると集中しやすくなります。

保護者と園（所）や学校との連携 …子どもは、家庭と園（所）や学校では様子が違うものです。その前提に立ち、「子どものより良い成長」のために、日頃から様子を伝え合ひましょう。

4 保育園（所）・幼稚園・小学校の途切れのない支援のために

①保育園（所）・幼稚園の特徴

- ・「遊び」を通して発達を促す
- ・子どもにとって初めての集団生活の場 …集団規律や社会との出会い
- ・基本的な生活習慣を身に付ける（身辺自立）
- ・心身共に大きく成長する時（からだ、こころ、ことば）
- ・「話しことば」を学ぶ
- ・年齢ごとの子どもの発達が著しい
- ・保護者にとっても、初めて出会う教育（保育）機関

②小学校の特徴

- ・遊びから「学習」が主になる
- ・学習と平行して、集団規律や社会性を学ぶ
- ・善悪の判断や道徳心を学ぶ
- ・心身共に大きく成長する時（学童期から思春期）
- ・「文字ことば」「学習に必要な言葉」を学ぶ
- ・学年ごとに設けられた学習内容がある（教科書）
- ・保護者（家庭）と学校が連携して成長を促す

③連携に必要なこと

- 顔の見える関係性を築く
- 互いの立場や役割をよく知る
- 必要な情報を提供し合い、共有する
- 互いの意見を尊重する …批判からは何も生まれない
- 十分な話し合いの場をもつ

④就学（小学校入学）にむけて大事なこと

保護者の方	保育園（所）・幼稚園
<input type="checkbox"/> 入学を検討している学校の情報を知る …それぞれの学校の特徴を知る ・オープンスクールや学校開放日への参加 ・授業体験への参加 ・実際に通っている保護者の感想 <input type="checkbox"/> 子どもの様子と各学校の特徴から、就学先を 考えていく <input type="checkbox"/> 様々な人から考えを聞く <input type="checkbox"/> 子ども本人が「毎日行きたい」と思える学校 か、「笑顔で過ごせるか」検討する <input type="checkbox"/> 時間をかけ、何を大事にしたいか家族でよく 話し合う	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会の担当者や保健師と連携 する <input type="checkbox"/> 地域の学校の正確な情報を知り、保護者に情 報提供する <input type="checkbox"/> 保護者、本人の考えや希望を受けとめ、傾聴 する <input type="checkbox"/> 園での集団生活の様子を保護者に日頃から 伝え、共通確認できるようにする <input type="checkbox"/> 最終判断は保護者ができるよう支援する。 <input type="checkbox"/> 保護者の了解のもと、就学先の小学校と确实 に引き継ぎをする

⑤引き継ぎ

- ・現在の課題と併せ、「こうすればできる＝有効な支援の手立て」も伝えましょう
- ・子どもの強み（好きなこと、得意なこと、長所）も引き継ぎましょう

5 おわりに

多様な育ちの子どもたちがいます。「みんなと同じ」ではなく、一人一人の子どもが自分らしく成長していくためには、大人の見守りとあたたかい手（支援）が必要です。子どもの伸びゆく力を応援し、好きなことや得意なこと、興味のあることを大いに伸ばしていきましょう。苦手なことは、応援したり練習したりしながら、手伝ってもらってもよいのです。子育てや教育には悩みもつきものです。互いの悩みや思いを出し合い、話し合ったり共感したりしながら、保護者も教育者も、子どもと共に育ち合っていくことができます。この子がいなければできない経験、得ることのできなかつた出会いがあります。

多様な育ちの子どもへの支援のために、お手伝いが必要な時はお気軽にご相談ください。